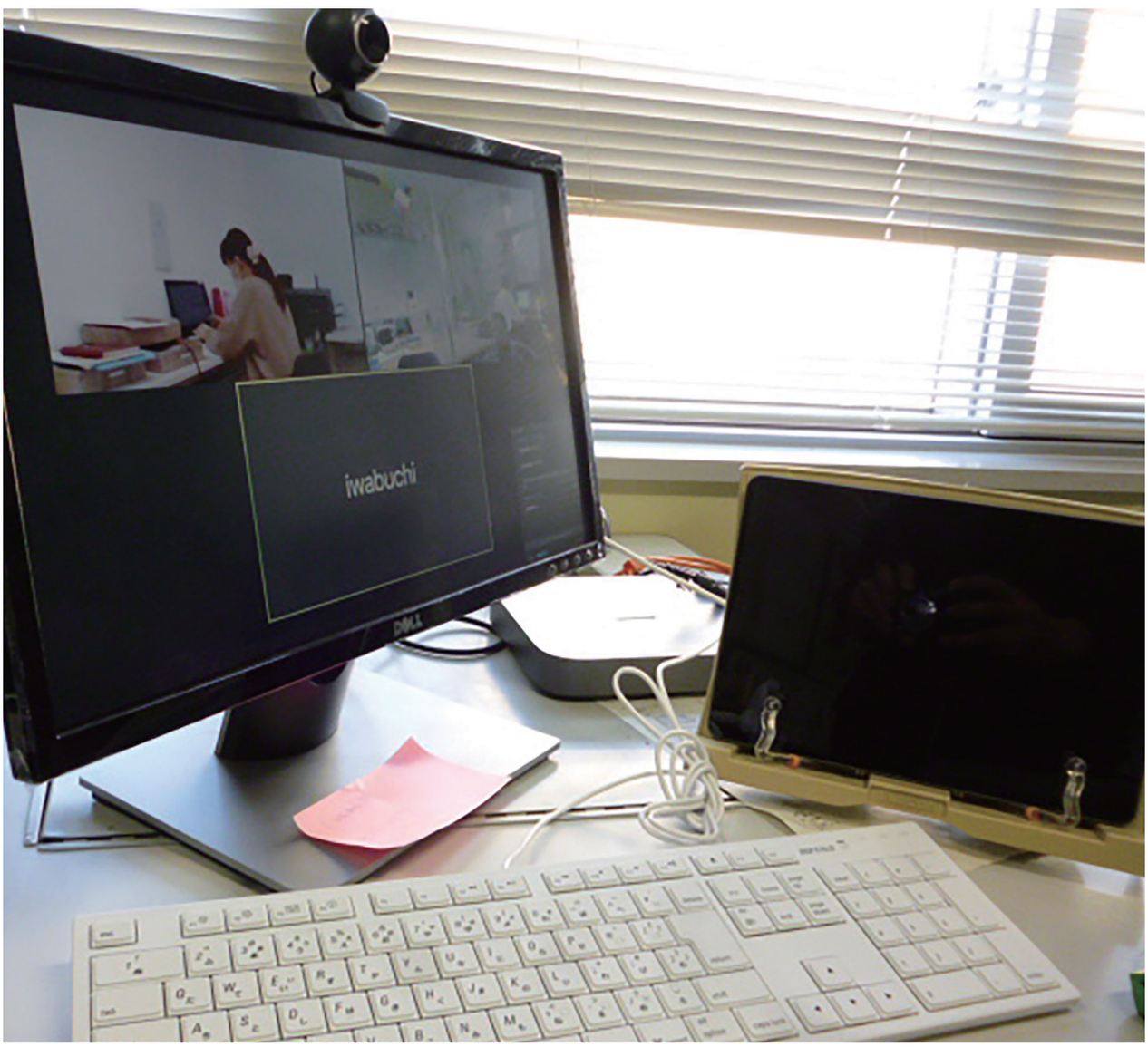
北海道高等聾学校専攻科情報デザイン科「学科だより」令和３年度第６号 通巻 191 号

情報デザイン科**学科だより**
Information Design Department

IDDNewsletter 1

January
2022



特集

テレワークという選択

新型コロナウイルスの感染拡大により、テレワークが急速に普及しています。情報デザイン科のカリキュラムの範囲内の内容を事業所等の場を活用して授業を行う「就業体験」について、今年度は、ICT を活用し、テレワークの要素を取り入れて実施しました。実践から見えた成果や今後の課題について考察していこう思います。

特集

テレワークという選択

新型コロナウイルスの感染拡大により、テレワークが急速に普及しています。情報デザイン科のカリキュラムの範囲内の内容を事業所等の場を活用して授業を行う「就業体験」について、今年度は、ICT を活用し、テレワークの要素を取り入れて実施しました。実践から見えた成果や今後の課題について考察していこう思います。

新型コロナウィルスの感染拡大による経済活動への影響は極めて甚大です。厚生労働省の調査によると､2011 年の「東日本大震災」以来、2020 年は就職率より離職率が上回ったそうです。学校の教育活動においては、校外に出る活動や集団での活動について、中止や延期が続いています。本校専攻科でも、例年行ってきた施設見学等の「校外学習」を、令和２年度、３年度については中止する対応をとりました。

このような状況の中、働き方改革の動きとも相まって、就労形態の一つのとしてのテレワークが急速に普及しました。これは　ICT　ツールを活用した新たな働き方の形態として、全国的に拡大を見せています。

専攻科情報デザイン科では、例年、専門教科の内容について、近郊の事業所等に御協力いただき、職場等で実践的に授業を展開する「就業体験」を行っていますが、今年度は、上記のような社会状況等を鑑み、テレワークによるリモート型の就業体験を行うことといたしました。

なにぶん初めての経験になることも多く、試行錯誤しながらの取組となりましたが、そこで得られた知見も大きいものだったように思います。

具体的には、クリエイティブ系と事務系の２種の異なる内容について、それぞれ実習を行いました。

クリエイティブ系の実習については、株式会社テレワークマネジメント様の御協力も頂きながら、11 月には、群馬県の株式会社物流サービス様と株式会社クリハラ様、12 月には旭川市のえびすけ株式会社様に御協力をいただき、主にグラフィックデザインに係る内容で実習を行いました。実習内容は、どの事業所も非常に実践的なものであり、デジタルサイネージやフライヤー、公共機関のリーフレット等について、 AdobeIllustrator や AdobePhotoshop を活用しながら制作を進めました。

また、事務系の実習については、PwCJapan 合同会社様の御協力を頂き、Excel を使ったデータ整理の業務を中心に実施いたしました。

学生は、本校のパソコン室で作業を行い、質問等はチャットやメール等を活用して行いました。朝礼や終礼等も、本校職員による手話通訳や音声認識アプリを利用した文字通訳等の合理的配慮を行いながら、リモートで参加しました。実習最終日は､事業所からも大変高い評価をいただくことができ、どの学生も充実感に溢れていたようです。

グラフィックデザインやデータ整理等に係る職種は、昨年来からのコロナ禍による在宅勤務の広がりもあり、現在ではそもそも事業所に出勤せず、自宅で作業を行う形態が相当に広がっています。情報デザイン科の学習内容に係る職種においては、リモートの形態による実習は、むしろ非常に実践的なものであったといえるかもしれません。

今回の実習では、これまでの情報デザイン科での授業におけるアプリケーションの操作技能や DTP 及びグラフィックデザインの専門知識がよく活かされたものと考えます。そして、事業所側から要求された成果物を一定の期間内に納品で

きたことも評価の観点としては重要です。今回の課題として制作した物のいくつかは、実際に製品として活用していただいています。

今回の就業体験は、今後の就業体験の方向性を考えていく上でも大変有意義な取り組みとなりましたが、実際に事業所に出向く実習と異なり、オンラインの実習は、言語指示だけで業務内容をしっかりと理解できる力がレディネスとして求められることになります。そのレディネスがあるのであれば、手話通訳や音声認識システム等の合理的配慮を組み合わせることで、聴覚障がい学生の就労の可能性と職域の幅は大いに広がるものとなるでしょう。

実習中の連絡は、チャットやメールを利用し、学生と事業所とで直接やりとりできるような形をとりました。チャットやメールは文字情報のみでのやり取りになります。今回の事後アンケートの結果からは、情報の齟齬や漏れなどについての御指摘もございました。テレワークでの就業、広告やデザインに関わる業務においては、特にこの点について確実に遂行できるような土台作りが必要と考えます。

また、実習中の情報保障について、今回は朝礼、終礼時にカメラを繋ぎ、その際の手話通訳、UD トークは学校職員が担当し実施しました。オンライン環境における情報保障は、さまざまな事柄に気を配る必要があり、不具合が生じる場面もいくつかありましたが、各事業所様の迅速な対応で短期間のうちに相当な改善が図られたと思います。

例えば、朝礼の際、挨拶や経営方針などを唱和し、複数の声が重なったことで手話通訳が聞き取れず通訳できなかった場面がありましたが、改善を求めた次の日には、かなり聞き取りやすくなるよう環境整備をしていただきました。

朝礼等での社是の唱和は、様々な事業所でも行われているものであり、私が今まで見てきた製造系の事業所でも普通に行われているものです。このような場面で、自分にとって何がわからず、どのように合理的配慮が必要なのかを適切に説明し、改善を求めていく力は、セルフアドボカシーの観点からも、聴覚障がい者の就労において最も重要な要素となると考えます。

学生からも、就業体験後のコメントで「自分の障がいを相手に理解してもらい、情報を共有する方法等を相談したり、確認したりすることが大切だ」とありました。情報保障の手立てや有り様について、方法や内容の具体を当事者は知識として見についておく必要がありますし、学校は、その知識を適切に学生に指導する力が求められます。

今回の就業体験実施にあたっては、株式会社テレワークマネジメント様にコーディネートをいただき、このあたりの情報についての事前研修会を行うこととなりました。

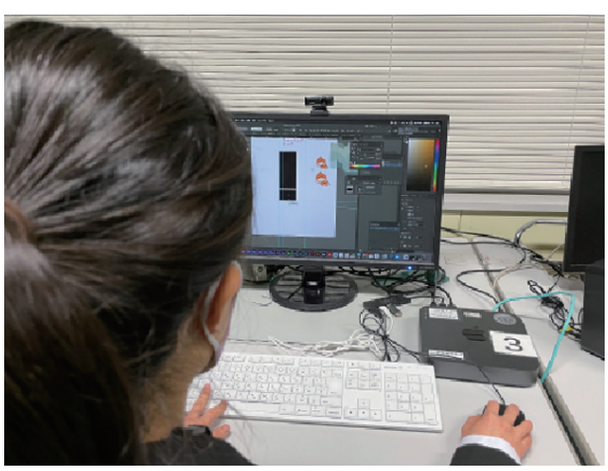
この事前研修会では、尾中友哉様（株式会社サイレントボイス代表取締役）を講師に、ZOOM で事業所、学生が顔合わせをしながら、「聴覚障がいとは何か」「どのような困り感が出てくるのか」「どうそれを乗り越えていけばよいのか」等について、学生、教師ともども学ばせて頂きました。尾中様の豊富な経験から得られた知見は、学生が自身の障がいの状態の理解を深めるだけでなく、教員側にもコミュニケーション面での課題とその対応について、当事者性の観点から改めてその必要性に迫るものでありました。

改めて、今回のテレワークを活用した就業体習について振り返ってみると、当初の想定以上に内容の濃いものとなり、これまでにはない成果が得られたものと思います。

御協力いただいた各事業所の皆様、株式会社テレワークマネジメント様、株式会社サイレントボイス尾中友哉様には、お忙しいところ、貴重なお時間を割いていただき、学生のために懇切丁寧な対応をしていただきました。

この場を借りて、改めて御礼申し上げます。ありがとうございました。

IDDN



Contents

特集
2-3 **「テレワーク」という選択**
新型コロナウイルスの感染拡大により、テレワークが急速に普及しています。情報デザイン科のカリキュラムの範囲内の内容を事業所等の場を活用して授業を行う「就業体験」について、今年度は、ICT を活用し、テレワークの要素を取り入れて実施しました。実践から見えた成果や今後の課題について考察していこう思います。

Welcome to Welcome to Informationesignepartment !!

令和４年度の入学生を募集しています！

北海道高等聾学校専攻科情報デザイン科では、令和４年度入学生を募集しています。１次募集は終了いたしましたが、現在２次募集について受け付けています。聴覚障害のある方で、高等学校や特別支援学校高等部を卒業等していれば、入学できます。それ以外の年齢制限や条件はありません。道外の方でも入学できます。昼食は給食となっており(注1)、希望があれば、寄宿舎に入ることもできます(注2)。

※入学条件の詳細は、下記アドレス専攻科情報デザイン科 Web ページ内の「入学者募集」をご覧ください。

専攻科情報デザイン科 Web ページ

http://www.koutourou.hokkaido-c.ed.jp/?page_id=228

入学者募集について

http://www.koutourou.hokkaido-c.ed.jp/?page_id=223

入学に関するお問い合わせ

ファックス：0134-62-2663
電子メール：koutourou-z0@hokkaido-c.ed.jp
電　　話：0134-62-2624

専攻科情報デザイン科の特徴

- 高等学校に設置される「専攻科」と同様の枠組みです。(いわゆる「準ずる教育」の教育課程です)
- 授業料が全くかからず、材料費等も非常に低コスト(注3)で、対費用効果の高い学びができます。また、通学等に関わる費用は「就学奨励費」の対象(注4)となっており、支援制度等も充実しています。
- DTP や Web に係わる「最新の」「スタンダード」な内容を重視します。(例えば、Web であれば、HTML5 と CSS3 を使い、セマンテックなコーディング、というように。もちろんテーブルレイアウトや center タグは使いません！)
- デザイン等に専門的な学習だけではなく、特別支援学校における「自立活動」(注5)で扱うべき内容、例えば日本語教育や聴者社会の社会生活に係わる内容等を、総合的に、到達度がはっきり理解できるように学びます。
- 学生のこれまでの学びの環境や積み重ね(「普通校」出身者か「聾学校」出身者か、失聴時期、日本語のリテラシー、学力等)に合わせた教育方法を準備します。
- 筑波技術大学と協調した授業等も行っています。
- 修了後について、本人、保護者の希望をお聞きすると同時に、ロールモデルとなる聴覚障がい教職員のアドバイスを受けたり、聴者社会とろう者社会、ろう者と難聴者との違い(注6)などについて客観的に学びながら、単に「好きなこと」から「(社会にとって、自分にとって)やる価値のあること」「自分の技量でできること」「社会に貢献できること」といった観点から主体的に進路選択できるようにしていきます。

※入試前(例年１月下旬を予定)まで教育相談等に対応できます。
一人一人に合った指導方法を準備するために、できるだけ入試前に教育相談にお越しになることをおすすめいたします。

注１：１食 330 円（昼食）で、就学奨励費の対象となっています。　注２：学年末・学年始休業日、夏季・冬季休業日は閉舎します。　注３：現在、学校で材料費等は徴収していません。授業毎に使用する材料等は、すべて学生自身で準備し、学校に持参していただきます。　注４：特別支援学校に在籍する生徒・学生への補助制度で、帰省や通学にかかる交通費、給食費等が対象となり、所得状況に応じて額は変わります。　注５：普通校には通常ない領域で、障がいそのものの改善に焦点を当てます。具体的には、弊校の場合、聞こえや社会生活、コミュニケーションに係わる内容となり、学校の教育活動全般をとおして行われます。　注６：医療や教育分野では聴力を基準に考えることが多いですが、聴覚障がい者の実際の社会での有り様においては、日本手話を母語とする「ろう者」と聴こえづらいけれども日本語を母語とする「難聴者・中途失聴者」で分かれます。

情報デザイン科**学科だより**
Information Design Department
IDDNewsletter
January 2022 1

IDD**Newsletter**　　**January** 2022

発行人／北海道高等聾学校専攻科情報デザイン科「学科だより」編集チーム
発行／北海道高等聾学校
〒041-0261　北海道小樽市銭函1丁目5-1
www.koutourou.hokkaido-c.ed.jp

※ご意見、ご要望などにつきましては、上記 Web ページより電子メールでご連絡ください。